




所属・職位	医学部看護学科実践看護学講座・准教授	
氏名	幸松 美智子 (Yukimatsu Michiko)	
取得学位	修士 (看護学)、高知女子大学、2002年3月	
SDGs目標	 	
研究分野	小児看護学	
研究キーワード	慢性疾患を抱える子ども 病児の家族看護 病児のしつけ 基礎教育 アセスメント能力	
研究内容	<p>●看護学生が捉える子どもの甘えの構造</p> <p>病児だけでなく子どもの成長発達に「甘え」は不可欠であるが、「甘え」の研究を紐解くと文化の中に「甘え」があるものの、子どもを養育する際には「甘え」は許されぬものとなっている。病児やその家族は強いストレスを抱えており、その意味でも「甘えや依存」は重要なコーピングであるが、医療従事には自立を促すことが需要であると甘えを許さない傾向が先行研究で明らかとなった。将来看護師となる看護学生が「甘え」をどのように捉え、対応すべきと考えているかを明らかにすることは、養育の専門家を育成するための重要な資料となるため取り組んだ（論文1）</p> <p>●学生の分析力向上におけるアセスメント・モデルの効果</p> <p>看護教育において学生の看護実践能力の向上が急務であるが、高校までの学習方法（科目の暗記）しか修得できていない学生にとって知識を統合して事象を正しく判断することは極めて難しい。そのため、学生の修得した知識の統合を図る手段が必要であり、本研究は臨床判断のモデルを用いて、より学生の活用し易いモデルへと改変したものを、学生に実際に使ってもらい、その効果を明らかにしたものである（論文2）</p> <p>●慢性疾患を抱える子どものしつけ</p> <p>子どもの養育に関する知識と技術の修得は、子育て不安が社会問題となっている現状において看護職に求められる能力である。子どもの育児に関する基本的な知識をまとめ、看護に応用できるようにしたものである（著書1）</p>	
研究業績・アピールポイント	<p>論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学生が捉える「甘え」について, 九州・沖縄小児看護教育研究会誌、第20号、2019 2. 学生の分析力向上におけるアセスメント・モデルの効果, 九州・沖縄小児看護教育研究会誌、第20号、2019 <p>著書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の子どもの成長・発達と看護, 小児の成長と発達、P99~133、メディカ出版、2021 2. アトピー性皮膚炎をもつ子どもと家族, 場面で学ぶ小児看護学 (改訂版) P139-152、メディカ出版、2019 3. 子どもの成長・発達. 場面で学ぶ小児看護学 (改訂版) p36-53、2019 	